

兵庫県政150周年記念先行事業

兵庫県女性消防団員 活性化大会 報告書



(公財)兵庫県消防協会キャラクター「消太くん」

日時

平成29年6月3日^土

[開場] 12:00 [開会] 12:30 [閉会] 15:15

場所

兵庫県教育会館 ラッセホール

神戸市中央区中山手通4-10-8

主催：公益財団法人兵庫県消防協会、兵庫県

はじめに

平成29年6月3日（土）、兵庫県教育会館ラッセホール（神戸市中央区）にて、「兵庫県女性消防団員活性化大会」を開催いたしました。

消防団員の皆さまは、日頃からそれぞれの職業（会社員、自営業、公務員、大学生、主婦など）に従事しながら、有事の際は消防団員として活動されています。中でも女性消防団員の皆さまは、きめ細かな視点や配慮を活かした、女性ならではの活動も多いことから、その活動の場は、今後さらに拡大するものと期待されています。兵庫県内でも、507名（平成29年4月1日暫定）の女性消防団員が活躍されていますが、本大会は、県内の女性消防団員が一堂に集い、県内外における活動事例発表などを通じて、今後の女性消防団員の更なる確保とその活動の充実を図るため、兵庫県との共催により今回初めて開催いたしました。大会当日は晴天にも恵まれ、県内女性消防団員や各消防団幹部等関係者404名と多くの皆さまに参加いただきました。

本大会の成果を今後に活かしていただくため、大会の記録を報告書としてとりまとめました。女性消防団員の活動の更なる充実はもとより、女性消防団員の入団が県内に広がり、ひいては地域防災力の更なる向上に繋がることを期待しています。

目 次

I プログラム

◇開 会 (12:30)	司会者：樽口 知加氏（三田市消防団女性班班長）	
1 あいさつ (12:32)	岸谷 義雄氏（(公財)兵庫県消防協会会長）……………	1
	荒木 一聡氏（兵庫県副知事）……………	2
2 事例発表① (12:45)	『消防団員確保の取組について ～地域に根差した消防団員確保対策～』	
	内田 隆氏（神奈川県横浜市旭消防団団長）……………	6
	川原 秀子氏（神奈川県横浜市旭消防団副分団長）……………	8
3 事例発表② (13:05)	『川西市女性消防団の活動事例及び 団員募集方法について』	
	加藤 英里氏（兵庫県川西市消防団副分団長）……………	10
4 事例発表③ (啓発劇①) (13:25)	『火はこわい～ゆきばあさん編～』 兵庫県播磨町消防団女性分団……………	13
	[休憩13:45]	
5 事例発表④ (啓発劇②) (14:00)	『「119」今あなたにできること!!』 兵庫県尼崎市消防団ファイヤーフェアリーズ……………	15
6 事例発表⑤ (14:20)	『「奈良市消防団」～活動紹介～』	
	石田 裕子氏（奈良県奈良市消防団班長）……………	17
	河内 美粧氏（奈良県奈良市消防団分団長）……………	19
7 講 演 (14:40)	『その時 女性隊にできることは』 西部 美千代氏（広島県広島市安佐南消防団分団長）……………	21
8 閉会のことば (15:12)	下西 直子氏（兵庫県神戸市灘消防団分団長）……………	26
◇閉 会 (15:15)		

II 大会資料

1 事例発表・講演資料(パワーポイント)……………	29
2 アンケート調査結果……………	45

あいさつ

1 あいさつ



岸谷 義雄氏

（（公財）兵庫県消防協会会長）

本日、ここに兵庫県と本協会の共催により兵庫県女性消防団員活性化大会を開催いたしましたところ、公私、何かと御多忙の中、数多くの関係者の皆様方に御出席を賜り心から御礼を申し上げます。

消防団員の皆様方には日々住民の生命と暮らしを守るため、日夜、消防防災活動に御精励いただいておりますことに、まずもって深甚なる敬意と感謝を表する次第でございます。また、本日は県内の消防団員のほか、横浜市旭消防団、奈良市消防団、そして広島市安佐南消防団の方々にも御出演をいただくということで、高いところではございますが、心より御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

さて、最近では地震や台風のほか、局地的に豪雨でありますとか竜巻、さらには火山の噴火などさまざまな災害が全国各地で頻発しており、いつどこでどのような災害が発生しても不思議ではございません。また、昨年末から今年にかけて、新潟県糸魚川市の住宅火災や埼玉県三芳町での物流倉庫火災、そして福島県浪江町の山林火災などの大規模な災害が発生しており、改めて火災事故の恐ろしさを痛感をいたしているところでございます。

今や消防団は火災だけではなく、さまざまな災害に対処する地域防災力の中核的な存在として欠くことができないものとなっております。兵庫県でも内陸活断層を震源とする地震や南海トラフによる地震・津波の被害が懸念をされております。こうした中、住民の生命、身体、財産を守る消防の役割はますます重要性を増しており、我々はより一層、強固な消防防災体制の構築に努めていかなければならないところでございます。

兵庫県内には消防団が62団ございます。全団員数は約43,000人で全国一の規模を誇っておりますが、その数は年々減少傾向にあり、各消防団において必要な人員の確保が重要な課題となっております。一方で女性団員は年々増加しており、現在500人もの方々が各地域で活躍をされておられますが、他府県と比べますとまだまだ女性団員の占める割合は低い状態でございます。

これまでも兵庫県消防協会では女性団員の知識・技能の向上を図るための女性団員研修会を毎年開催しておりますが、本日の大会は女性団員だけではなく各消防団幹部の皆さん、特に女性団員を採用されていない消防団の方にも参加をしていただくことで、女性団員の更なる確保と活動の充実を図り、ひいては消防団全体の活性化につながるのではないかと考えております。女性活躍推進法が平成28年4月に施行され、消防防災分野においても女性の活躍促進が求められている中、本日の大会を契機として各消防団での取組みが進展されますことを期待しております。

結びに、本日お集まりの皆様方の今後ますますの御活躍と各消防団の発展を祈念をいたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。

本日は御参加、本当にありがとうございます。



荒木 一聡氏

(兵庫県副知事)

本日、県消防協会との共同により兵庫県女性消防団員活性化大会を開催させていただきましたところ、県内から本当に数多くの皆様に御出席いただきました。また、岸谷会長から御紹介がありましたように、講師の方々には横浜、奈良、広島と遠くからお越しいただきましたこと、高い席からでございますけれども、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

岸谷会長のお話にもございましたが、お集まりの皆さまには、地域における火災や自然災害の現場におきまして、自らの危険も顧みられず救出救命にご尽力いただきますこと、心より敬意を表させていただきます。

さらに、県内外で発生する様々な災害に対しまして、御支援を頂戴しておりますこと、心よりお礼を申し上げます。

最近、地方創生や地域創生という言葉をよく耳にされると思います。人口が減っていく、そしてまた少子化、高齢化が同時に進む、そうした中で東京に人口や資産が一極集中する、一方で、地方の弊害化、疲弊が出ている状況でございます。これをどうにかして取り戻すことが地方創生、地域創生であり、地方が元気になるということです。地方に帰って来ていただく、人口が増えることも大事でございます。そのために、その地域が持っております個性や特性を磨き抜いて、地域づくりを進めることが求められています。

兵庫県も多様な風土を持っています。本県の地域創生の1丁目1番地は県民の皆様の安全・安心、日本一安全で安心して暮らしやすい県土をつくろうということが第1の目標でございます。22年前に、阪神・淡路大震災を経験し、その後の自然災害も幾多発生していますが、そうした経験や教訓を培ってまいりました。こうしたことを県の政策の中に生かしていくためには、ハード、ソフトの両面からの施策が必要だと考えます。

ハードの面におきましては、南海トラフの地震が予測されていますけれども、「津波防災インフラ整備計画」では、防潮堤や河川の堤防などの整備でございます。加えまして山地防災、土砂災害対策としましては、県民の皆様の御理解を得まして、平成18年に県民緑税を県税として創設させていただきました。これに基づきまして災害に強い森づくりを進めさせていただいております。おかげさまで整備をしたところでは、整備していない地域に比べますと、被害が少なかったという効果も出ているところでございます。

一方、ソフト対策には、やはり自助、共助、公助の取り組みが求められています。自らの命は自ら守るのが基本であり、災害時の情報を正しく迅速に伝えること、そして、「南海トラフ地震・津波対策アクションプログラム」を策定しましたが、自らが災害に遭った時に、どのような行動をするのかというチェックも必要です。また、毎年の防災訓練の実施もその一つでございます。

加えまして共助という観点から申し上げますと、この3月に「ひょうご防災減災推進条例」を制定させていただきましたけれども、災害時に援護が必要な方をどのような形で把握し、守るか、そのような仕組みも大事であると思います。そして、公助の中で皆様方の御活躍があると思います。

女性消防団ができましたのは、県下では昭和36年でございます。今から55年前になろうかと思いますが、その場所は兵庫県の現在の香美町、美方郡旧美方町でございます。あの当時は、稲刈

りが終わりますと男性の皆さんは杜氏など、冬場は家をあけられます。そういったことから、地元の皆様方の御婦人方が中心となりまして消防団をお作りになったのではないかと伺っています。

また、阪神・淡路大震災での経験も教えていただきました。芦屋市の事例で、懸命の努力の末、女性の方を救出されたことがございました。救出時はお元気でございましたけれども、その後、しばらくしてから亡くなられた。この被災女性は救出された際、男性消防団員の皆さまに介護、看病されました。その時、この被災女性は、十分、消防団員の皆様に自分の思いを伝えられなかったのではないかと、そのような思いの中から芦屋市の女性消防団は発足したと教えていただきました。このように、様々な場面におきまして皆様方の活躍はなくてはならないものだと思います。

そうした中で、女性団員の皆様は既に御紹介ありました、平成25年には350人ぐらいいらっしゃいましたけれども、おかげさまで平成28年には500人近くという形で増えてまいりました。本当にありがたいこととございます。そうした中で、いわゆる女性消防団員さんがいらっしゃる消防団は62団中39団で、率にしますと63%ぐらいです。若干全国より少ないという状況でございます。また、女性団員さんがいない消防団は3割あると、こうしたことが課題ではないかなと思っています。

今日はこうした課題を踏まえて大会が開催されます。本当にうれしく思います。この大会を通して、皆様方がお持ちの課題ですとか、悩みを共有させていただきたいと思います。是非、せっかくの機会でございますので、顔の見える関係として交流を深めていただきたいと思います。こちらの舞台では男性ばかりですが、司会者、そして事例発表の方、全て女性でございます。本当に女性が輝く大会ではないかと思っています。

最後になりましたけれども、兵庫県では県政150周年を迎えることになりました。また、おかげさまで震災から進んでまいりました行財政構造の改革も、一応に目途が立ってきています。こうした時期をとらえまして、県といたしましては安全・安心な社会づくりにつきまして、県も頑張っている所存でございますので、引き続き御支援、御鞭撻を申し上げたいと思います。少し話が幅広くなりましたことをお許しをいただきまして、私の御挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

開会式の様子



岸谷会長 開会あいさつ



県幹部



消防協会副会長



司会：
三田市消防団 女性班
班長 樽口 知加 氏

事例発表・講演

要約及び要旨

2 事例発表①（要約）

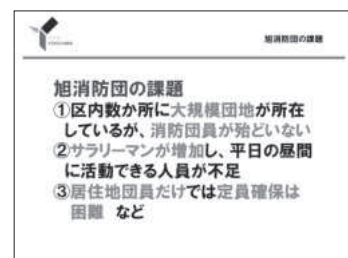
『消防団員確保の取組みについて』 ～地域に根ざした消防団員確保対策～

横浜市旭消防団 団長
内田 隆氏



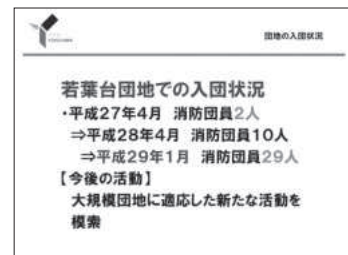
[横浜市旭消防団の状況と課題]

- ・横浜市は18行政区で人口376万人。消防団は20消防団、消防団員の定員は8,305人です。旭区は市内西部にあり人口25万人。旭消防団の定員655人ですが、平成27年4月現在557人で、充足率は85%でした。
- ・横浜市は今後30年以内に震度6以上の地震発生確率が80%を超えており、首都直下地震も危惧されています。消防団に対する期待は高まっており、定員充足率100%を目指すこととしました。
- ・旭消防団の課題には、①旭区内には若葉台団地などの大規模団地が数カ所あり、消防団員がほとんどいないこと。②サラリーマン団員が増加し平日の昼間に活動できる団員が不足しており、③長年、居住地の団員確保に取り組んできたものの、定員に届かない状況にある等の課題があります。



[消防団員の確保に向けた取組み]

- ・このような課題を踏まえ、若葉台団地に特化した消防団員の募集活動を進めました。平成27年8月若葉台団地で高層建物の火災が発生しましたが、当日は若葉台団地周辺から団員が集結し、要介護者の救護、消戒活動等を行い住民の皆様から感謝されました。
- しかし、既に若葉台団地は誕生してから30年以上が経ち高齢化が進み、災害時に不安を抱える方が増えている状況でした。
- ・そうしたなか、自治会や管理組合、消防署・団で構成する団員確保プロジェクトを立ち上げ、自治会活動や夏祭り等での募集に取組みました。その結果、平成28年4月に10人が加入し、現在の29人まで拡大しました。今後の活動は大規模団地に適応した資機材の整備や新たな活動を模索していく予定です。



[女性消防団員の確保の取組み]

- ・消防団員はサラリーマンが増加しており、平日の昼間に活動できる人員が不足し、女性消防団員の確保を進めました。
- ・まず、毎月1回、平日の昼間に女性団員の代表で構成する会を開催し、女性団員の役割や活動内容、現状の課題等を検討しました。女性消防団員には、体力的に不安があること、平日の昼間に時間がとりやすいこと、子育てを通じて身近な事故への対応が可能なこと、女性特有のネットワークを活用できるなどの意見がありました。

[女性団員にできること]

- ・災害時に女性団員ができることは、①火災での負傷者や高齢者などの救護、②火災現場やその周辺の住宅での家族構成に関する情報の提供、③大規模な災害時には本部要員として災害情報やポンプ車の活動状況などの情報収集、④団本部や各班、各部隊に伝達する任務等があげられました。救助資機材を使用する体力はなくとも男性に手伝ってもらうことも可能なことから、指導方法の習得も進めました。

[女性団員の活動]

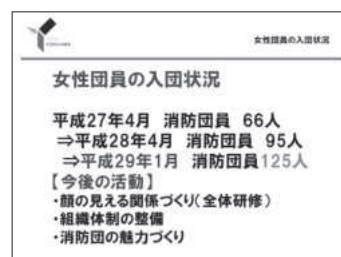
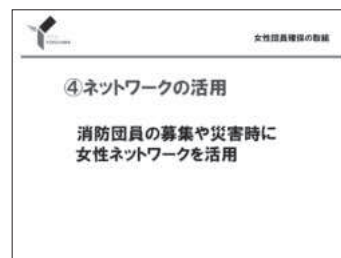
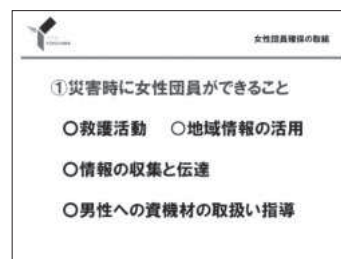
- ・平日の昼間に小中学校や地域住民に対する指導、また女性団員だけの訓練では、上級救命講習に加え、子供の事故を想定した着衣泳訓練や災害情報の収集と無線機の取り扱い訓練、油圧救助器具の取り扱い訓練なども実施しています。

[参加しやすい環境づくりとネットワークの活用]

- ・子育て中の女性団員が安心して訓練や教育を受けるためには託児所の設置が欠かせません。旭消防団では訓練の際、保育士とベテランの子育て経験者による預かり所を設置し安心して訓練を受けています。
- ・近所付き合いや子育て、地域活動等を通じて女性特有の様々なネットワークが構築されており、災害時はもとより消防団員の募集などで活かされています。

[定員充足率100%の達成]

- ・当初66人であった女性団員が約2倍の131人まで拡大しました。今後は団員同士の顔が見える関係をつくっていくため、年に何回か全体研修なども実施し、指揮命令系統を整えて、効果的な運用ができるようなことを検討していく予定です。
- ・さらに男性団員も含めて定員655人の仲間を確保することができました。今後とも組織の活性化はもとより、地域と連携しながら住民の皆様の信頼と期待に応えられる消防団をつくってまいります。



『女性消防団員の確保について』

横浜市旭消防団 副分団長

川原 秀子氏



[旭消防団の状況]

- ・旭消防団は、現在655名のうち女性団員が131名で2割を超え、横浜市20団のうちでトップです。消防団は人数が多くなないと充分機能しないので、欠員のある団には女性に入団いただき、消防団員の皆さんを助けてほしいと思い本日この場に立ちました。

[女性団員確保の方法①]

- ・女性消防団員の入団を進めるためには、消防署、消防団の幹部の方々が、本気で女性団員を確保したいと思わないと入りません。そのことを大前提に理解いただいた上で、これまでの2年間、私が取り組んできた消防団員確保について話します。
- ・2つの方法があります。1つは、私たち女性消防団員は毎回約10人のグループにより区内の全中学校での、小学校の先生約400名、そして青少年指導員、家庭防災員、保健推進員、スポーツ推進委員、それから自治会役員さんたちへの救急講習、スタンドパイプや水消火器を使用した初期消火訓練、あるいは救助訓練を実施しています。
- ・そうした活動では、団員さんは澄んだ水で泳ぐ魚だと思っています。例えば救急講習の中で、消防団に向いてる方を見つけると、その方に近づき「私よりもすごく上手ですよ。一緒に教えていきませんか。」と声をおかけします。その時に必ず携帯番号を教えてもらいます。
- ・後日、私から電話するのですが、大体皆さん出てくれます。1人か2人までの面談で、「消防は地域防災力につながるし、何かあったとき、お子さん、おじいちゃん、おばあちゃん、家族はあなたが守るのよ。」「すごくやりがいがありますよ。」というような消防団の良さをお話させていただきます。また救急講習をしています但实际上に人を助けて表彰されたことを講習などで皆さんに説明したりします。
- ・例えば家庭防災員や、スポーツ推進委員、自治会の集まりなどでも、お話しさせていただいて、「そういうことならやってみよう。」と入団いただいています。

[女性団員確保の方法②]

- ・もう一つの方法です。先ほど若葉台地区に特化した取組みの話がありましたが、私は若葉台団地の分団に所属しています。若葉台団地には元々消防団員がいない地区でしたので、30名くらい募集したいと、消防署長や分団長に、連合町内会長の許可をいただくようお願いしました。連合長から行事の時に消防団が団員募集をしてくださっていいと了解いただきました。行事では、分団長や団員が20名ぐらいで来られて、消防団テントを設置し、勧誘チラシや子供のおもちゃなどを配って、募集しました。
- ・私は、活動服を着て、ドッジボールやグラウンドゴルフ、輪投げをして、皆さんと遊び、自治会役員の方とも仲良くしました。お祭りでは、焼きそばやビールも売ります。私は孫を連れて全部の店で買い物をしました。買うことも協力です。一生懸命な若葉台団地の役員の方たちと仲よくなりました。

- ・まず最初にはスポーツ推進委員の会長さんでした。「世話になってるから入るよ。」「1人で入ると心細いでしょう、2、3人連れてきてよ。」と言うと、スポーツ推進委員の方が5名入りました。

[取り組みの成果]

- ・その後、子供会の会長さん、連合の事務局長さん、お祭りの世話役さん、その辺の皆さんも、私が頼みました。一緒に連れてきた人も含めて、今のところ男性が22名が女性8名で30名入りました。この方法により、今では旭消防団は、入団待ちとなっています。入りたい方が、定員オーバーで入れないような状態で、誰かやめる人が出るまで待ってもらう状態です。
- ・これからの課題は、入団の1年生、2年生の方を、一人前の消防団にすることが私たちの役目だと思います。
- ・やはり私一人だけでなく、女性団員の皆さん、出張所長さんの職員方、分団長さんの協力があったからこそ、こうした多くの入団者数が達成できました。2年間で50名や60名くらい入団したのではないかと思います。

[消防団幹部の強い思い]

- ・ご出席の皆さんも、1人でも多くの女性団員の確保いただいて、一緒に活動され、さらに地域防災力を高めていただきたいと思います。本日は消防団幹部の方がたくさんいらっしゃいますので、地元へ帰ってから、「俺たちが本気にならないと入らないんだ。」ということをして、どうぞ団長さんとか副団長さんにお伝えください。よろしくお願いします。



3 事例発表②（要約）

『川西市女性消防団の活動事例及び 団員募集方法について』

川西市消防団 副分団長
加藤 英里氏



【川西市について】

- ・兵庫県南東部、東は大阪府池田市と箕面市、西は宝塚市と猪名川町、南は伊丹市、北は大阪府能勢町と豊能町に隣接し、東西に狭く南北に細長い地形で、昭和29年に1つの町と2つの村が合併して誕生しました。

【平成5年 第11分団 チェリーファイアー 発足】

- ・平成5年8月、女性のソフトさを消防団活動の目的として発足し、愛称「チェリーファイアー」は、市木の「桜」と消防団徽章「桜」から取ったもので、女性の愛らしさ、ソフトさを表現しています。
- ・まず女性団員の募集は市の広報紙を通じ、川西市在住の18歳以上39歳までの女性を対象として行い、面接、体力測定の選考に合格した定員30名で発足しました。
- ・主な入団の動機はさまざまで、制服に憧れた、身近で傷病者を発見した際の応急手当の必要性を感じた、知り合いの紹介で興味を持ったなどです。現在は、主婦、学生、会社員など19名で活動中です。



【チェリーファイアーの主な活動】

- ・年間計画に沿って、月に一度の定例分団会議の開催をはじめ、春、秋全国火災予防運動期間中の放水訓練、猪名川花火大会での水際警備、水防訓練など、地域に密着した活動、さらには市民向け防火指導、救急手当などの救命講習会の進行や補助のほか、広報による啓発活動にも取り組んでいます。



【川西市ポンプ操法大会出場】

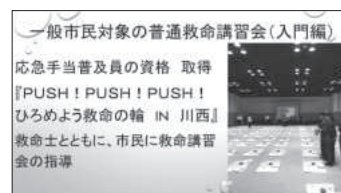
- ・川西市では2年に一度、消防操法大会を開催しており、平成28年には女性消防団員のチームを結成し、約20年ぶりに小型ポンプの部に出場しました。平成13年全国女性消防操法大会に県代表として出場した経験がありますが、今回は、大会要綱に沿って、男性団員が使用している資機材を借りて出場しました。



- ・まず、練習は基本の礼式訓練からスタートし、操法では、正確に正しい操作ときびきびした動作、女性ならではのしなやかさを発揮できる動きなど繰り返し行いました。
- ・結果は出場部隊21部隊中、7位でした。男性団員たちに、とてもよい演技だったと言われ、チェリーファイアーが一丸となって真剣に練習を積み重ねた結果、団結力をより一層強めることができました。

[普通救命講習会]

- ・私たちは、応急手当普及員の資格を取得しており、一人でも多くのバイスタンダーを増やすために、様々な場所に出向き、講習会の講師や救急救命士の補助にあたり、市民への指導を行っています。
- ・平成28年にはアステホールで開催された川西市消防本部による普通救命講習会で、入門編の講師として参加し、市内の体育会系の部活動に所属している中・高生を含む約100名の市民の方々に心肺蘇生の重要性や方法をレクチャーしました。



[男性団員向け普通救命講習会]

- ・平成29年3月、約60名の消防団員に対し普通救命講習会を行いました。
- ・効果測定の際、講習会応用編として、①正しくパッドを貼れるか、②倒れた人を救助するため周囲の人に協力要請できるか、③AEDの電気ショックのボタンを押す際、倒れている人の足をさすり呼びかける役を演じたり、体毛の処理が的確にできているかなど救助者による安全の確認ができているかをチェックしました。
- ・最後は消防団幹部が傷病者役となり、男性団員同士が力を合わせて救助する形を取り、参加した団員たちにも好評でした。今後は、市民対象の講習会においても、応用編を取り入れたいと思っています。



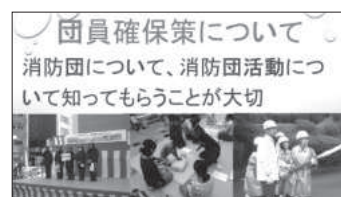
[一庫ダム周遊マラソン大会救護活動]

- ・このマラソン大会では、女性消防団結成時から数年間は、出発時点の沿道警備でしたが、平成27年度からはマラソンコース途中の救護ポイントで、応急手当用具とAEDを装備した、1隊3名の救護チームで、ランナーの救護活動にあたっています。
- ・60代の男性ランナーが転倒し、左のまぶたの上1cmほどに裂傷を負った事案では、顔面から血を流しながら救護地点にたどり着いた負傷者に対し、女性団員2名が、裂傷部分の消毒、圧迫止血を行いました。実践でも落ち着いて処置ができるように、普段の活動から心がけていきたいと思っています。



[女性団員の減少]

- ・チェリーファイアー結成から24年が経過し、当初30名でスタートしましたが、現在では定員を下回る19名となり、人数確保に苦戦しています。
- ・24年間、団の年間行事はほぼ変わらないものの、女性団員には研修や講習補助などの依頼が少しずつ増えて、多い月では出勤日数が5日以上となり、団員数が少ないと、一人当たりの出



動回数が増えるので、それが負担となる団員も出てきました。

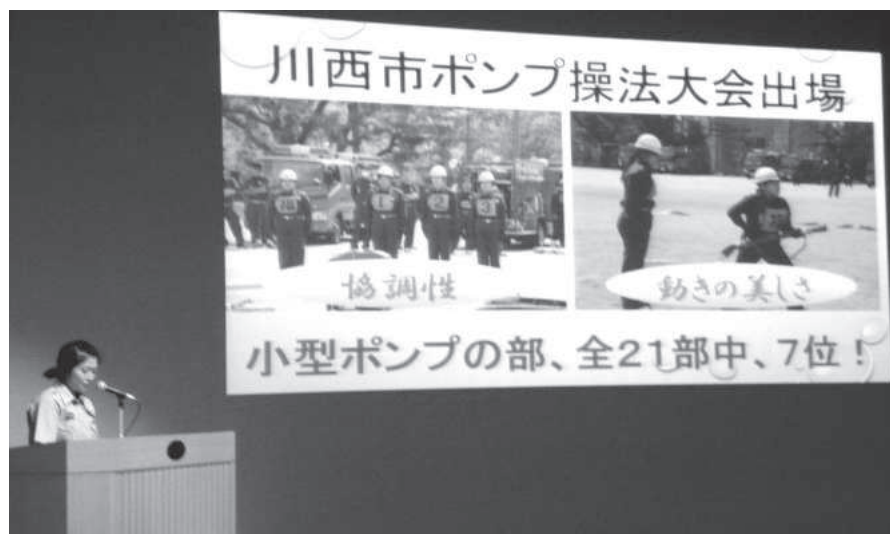
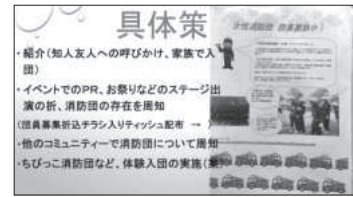
- ・様々な方法で新規入団確保を呼びかけています。しかしまず、女性団員の活動を知ってもらうことが必要だと感じています。

[団員確保の具体策]

- ・入団のきっかけは、親兄弟、知人、消防職員など様々な人からの紹介が最も多いです。

広く知ってもらうために市民が集まるお祭りなどのイベントに出演し、消防クイズや紙芝居を披露した際に、消防団活動のPRと入団勧誘を行っています。

- ・入団の資格は、当初45歳までとした上限の年齢制限は撤廃し、勧誘の対象を、地域のボランティアに興味を持っている市民や学生を中心に定め、友人同士誘い合って入団してもらえるよう、イベントの機会が多い団員が別のコミュニティへ出向いて積極的にPRしています。ティッシュペーパーに団員募集の折り込みチラシを入れて配布したこともあります。
- ・また、幼年消防クラブのお子さんの保護者の方々に、消防団に1日体験入団してもらい、防火や応急手当の知識を深め、保護者の方々に多くのことを学び消防団のメリットを知ってもらう機会を作っていきたいという意見があがっています。
- ・市の広報紙や新聞など各種メディアに取り上げていただいたり、常備消防と連携し、いろいろな場所でご縁を繋いでもらっています。
- ・結婚して市外へ転出するなど、環境の変化で退団せざるを得ない団員もおりますが、個々、様々な家庭や職場環境にも対応し、団員が生き生きと活動できるように入団後もチームワークを考慮し、団員同士で交流するなどフォローを忘れてはいけないと思っています。
- ・お互いに助け合うことで、一人一人の団員が入団して良かった、また市民からもチェリーファイアーがいてくれて良かったと思われるような活動をこれからも続けて行きたいと思います。



4 事例発表③（啓発劇①）（要旨）

※動画が視聴できます。兵庫県消防協会ホームページ「女性消防団員活性化大会報告書」からYouTubeへリンク。

『火は怖い～ゆきばあさん編～』

兵庫県播磨町女性分団

〔啓発劇の概要〕

ある家庭での嫁と「ばば」（姑）の日常の会話から始まります。

「ばば」の家事や行動から、3度も火災が発生してしまいます。そのたびに播磨町女性消防団マスコットボーイ「けすぞう君」が登場。火と戦いを挑み、見事に消し止めてくれます。

「けすぞう君」が、天ぷら火災、たき火火災、ろうそく火災を事例にして、家庭内での火の取扱いや火災を起こさない注意点などを、おもしろおかしく、そして、わかりやすく教えてくれます。

今回は、播磨町女性消防団が日頃から地域で実施している火災予防の普及啓発劇の一つを、披露していただきました。

〔天ぷら火災編〕

○「ばば」の天ぷら揚げ！

- ・「ばば」は、口うるさい嫁が外出した間に、久しぶりに鯛の天ぷらを食べようと、台所で天ぷらを揚げ出しました。
- ・そこで、電話が鳴り、てんぷらを忘れたまま話に夢中になってしまいます。
- ・そのうち焦げ臭いにおいがきて、火事に気がつき、電話を放り投げ、大騒ぎ・・・。
- ・「消防車呼んでー。」と叫ぶ！

○「けすぞう君」の登場！

- ・どこからか、「けすぞう君」が、消火器を持って現れ、火と戦い、即座に消火してくれます。
- ・「けすぞう君」が、「油に火を付けたらその場を離れない、これは基本。電話や来客の時は火を一旦消すこと。」「鯛の焦げ焼きで済んでまだ良かったで。もう少しで「ばば」も火葬場要らずやった。火が出たらすぐに消火器を使わな、あかんで。」と厳しく注意します。

○「ばば」と「けすぞう君」が、消火器の使い方を練習！

- ・「けすぞう君」が「使い方は、黄色いレバーを抜いて、ホースを火元に向けて、レバーを握ること。」「初期消火は逃げ道を確保してから始める。火柱が背丈以上になったら逃げること。」と使い方を説明し、自分の家に帰って行きました。
- ・「ばば」は、「このすすだらけの台所は、誰が掃除するんや。」とぼやきます。

〔たき火火災編〕

○「ばば」のたき火！

- ・「ばば」は、庭の落ち葉を集めたき火をし、一石二鳥ということで、焼き芋を作ろうとしています。
- ・そこに風が吹き、落ち葉が舞い上がって火があちこちへ散ってしまい、大騒ぎ。



○「けすぞう君」またまた登場！

- ・またまた「けすぞう君」が消火器を持って現れてくれたおかげで、消火完了。
- ・「ばば」は、「けすぞう君」から、こんな風の強い日に焚き火なんてもってのほかと、お叱りを受けます。

○「ばば」、「けすぞう君」から初期消火を教わる！

- ・「けすぞう君」から、「火事の際は、まず大きな声で助けを呼ぶこと、『火事だー』、『火事だー』と叫びながら初期消火。」とアドバイスを受けます。
- ・「ばば」は、「嫁のあほんだら。」と大きな声で叫び、バケツの水をまいて、初期消火を行いました。

○「ばば」、「けすぞう君」から火が衣服へ燃え移った際の対処法を伝授される！

- ・衣服へ火が燃え移ってしまった時の対処を、「けすぞう君」から聞かれた「ばば」は、「走り回って火をはらう。」と答えます。
- ・「けすぞう君」から、「それでは火をはらった手を火傷してしまうし、風に煽られ火の勢いが増してしまう。」と注意されます。
- ・「けすぞう君」が、「もし服に火がついたら、走らずにストップ、止まって！ドロップ、倒れ込んで、ローリング、転がって火をもみ消すんです。」「着衣着火で多くの人が命を失われている。火には近づきすぎない、火力を調整する。衣服に火がついたら、水の中へ飛び込むか、ストップ、ドロップ、ローリングだよ。」と説明します。最後に「おばあさん、お願いですから家でおとなしく昼寝でもしといてください。」と言いついて残して帰って行きました。



[住宅用火災警報器編]

○「ばば」住宅用火災警報器のおかげで命拾いする！

- ・「ばば」が、仏壇のろうそくの火を灯したまま、居眠りをしています。
- ・ろうそくが倒れてくすぶりはじめ、警報器が鳴ります。
- ・「ばば」の目が覚め、少しパニックを起こしますが、身をかがめ、鼻と口を押さえて窓を開け、消火器で火を消します。

○「けすぞう君」登場！

- ・「ばば」は、「『火事です、火事です。』と言って起こしてくれたのは、あんたかいな。」と聞きます。「けすぞう君」は、住宅用火災警報器のお陰であることを伝えます。
- ・「けすぞう君」が「ばば」へ「住宅用火災警報器は、煙に反応して火事を知らせてくれる便利な警報器で、平成18年から、皆さんの寝室に取り付けることが消防法で義務づけられました。しかし、自分で購入して取り付けなければならないため、まだまだ未設置の家庭が多い。そんな中、お宅のお嫁さんは、きちんと取り付けしてくれていたから、あなたの命が助かったんですよ。」と説明をして帰って行きました。



5 事例発表④（啓発劇②）（要旨）

※動画が視聴できます。兵庫県消防協会ホームページ「女性消防団員活性化大会報告書」からYouTubeへリンク。

『「119」今あなたにできること!!』 兵庫県尼崎市ファイヤーフェアリーズ

[啓発劇の概要]

尼崎家の食卓（お父さん、お母さん、消子（長女））の団欒から始まります。そして、突然やってきた一人暮らしのおばあちゃんも加わり、尼崎家の一家全員で、「救急」について考えます。

尼崎家に訪れた救急隊員が、急病人が発生した際の119番通報の仕方や、救急隊員が到着した時の対応について、楽しく、わかりやすく教えてください。

さらに、最後に尼崎ファイヤーフェアリーズオリジナル防災の歌「一人ひとりの大切な命」を手話の振り付きで披露していただきました。

[尼崎家の団欒風景]

○尼崎家の一人暮らしのおばあちゃん、日頃からの準備が必要！

- ・尼崎家の家族が、食卓で団欒中です。「近年、大規模な災害が多く発生し、防災だけではなく、救急も忘れてはいけないんだ。」「一人暮らしの高齢者の支援などは、自治体で強化しているところもあるが、全国的にはまだまだなんです。」「尼崎家にも一人暮らしのおばあちゃんがいるので心配だよね。」
- ・尼崎家に突然おばあちゃんがやってきました。おばあちゃんは、「日頃から入院セットを用意し、怪我や病気に備えている。日頃どのような薬を飲んでいるかひと目で分かるように、「お薬手帳」も忘れてはいけない。」「私より、自分たち（尼崎家）のことは大丈夫か？」と心配しています。



[119番通報のポイント]

○救急隊員登場！

- ・何が起こるか分からないから、防災についての準備が必要です。そんな中、お父さんが「救急隊員」を呼びました。
- ・救急隊員は、現場へ到着した際、自分達がより早く適切な処置を行えるように、119番通報の際の正しい通報の仕方や状況説明が大切であることを説明してくれました。

○お父さんが倒れて、119番通報！

- ・お父さんが倒れたと想定し、訓練を行いました。消子が119番通報します。「火事か救急か？」「場所は？」「目標物は？」の質問に、やはり焦ってパニックになってしまいます。

○119番通報のポイント「あ・め・は・お・い・し・く」！

- ・舞台上に通報のポイントをまとめたボードが登場し、救急隊員が「あ・め・は・お・い・し・く」の説明をします。



「あわてず、明確に、はっきりと、落ち着いて、今いる場所と、知っている情報を、くわしく伝えることが必要です。」「落ち着いて通報できるよう、電話機のそばなどにメモを置いておくこともおすすめです。」

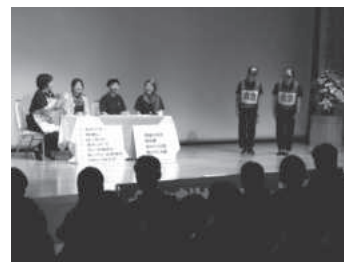
- ・再度お母さんがチャレンジ、立派にこなします。



[救急隊到着時の対応]

○救急隊が到着、家族全員で挑戦！

- ・「お父さんしっかりしてー！！」「救急車はまだなのー！？」
- ・救急隊員「倒れた時の状況と変化を教えてください。」家族がそれぞれ、口々に話しますが、救急隊員には上手く伝わりません。
- ・救急隊員「皆さん、『あめはおいしく』を思い出して、やってみてください。」
- ・家族全員で再チャレンジ！救急隊員が「私たちが到着する前に、何か変化は？」「以前に手術したか、飲んでいる薬はありますか？」何とか答えて、まあ、合格ということになりました。



[再び尼崎家の団欒風景]

○災害に備えて常に準備を！

- ・「きっと自分は大丈夫と思い込むのではなく、他人事だと思わずに、災害や事故に備えて、常に準備をすることが大切です。」と、救急隊員からアドバイスがありました。
- ・正しい知識を身に付けることも大切だし、色々な情報に流されず見極めることも大切であることを、尼崎家の人々は学びました。

[尼崎ファイヤーフェアリーズオリジナル防災の歌]

○尼崎ファイヤーフェアリーズオリジナル防災の歌「一人ひとりの大切な命」を披露！

- ・尼崎ファイヤーフェアリーズ作詞、あまゆーず作曲のオリジナルソングを、手話を交えて披露していただきました。



事例発表・講演

奈良市消防団 班長
石田 裕子氏



PFA 研修

-

子 供 版 PFA 研 修



深刻なストレス状況にさらされた人々への人道的、支持的かつ実際に役立つ援助。には次のようなことが含まれます。

- 押しつけがましくない、実際に役立つケアや支援
- ニーズや心配事の確認
- 水や食料など、必需品の援助
- 無理強いせず、相談する
- 安心させ、落ち着かせる
- 被災者に、情報や公共サービス、社会的支援につなぐ
- さらなる危機からの保護

平成27年度
奈良市消防団・DMAT・DPAT合同訓練

- | | |
|----------------|-----------------|
| ・主 任 官 員 室 消防団 | 参加機関 |
| ・次 長 官 員 室 消防団 | ・消防団消防団 一般消防消防団 |
| ・近 頃 日本鉄道(株) | ・消防団消防団 消防団消防団 |
| ・日本DMAT事務局 | ・消防団消防団 消防団消防団 |
| ・DMAT事務局 | ・日本DMAT 消防団消防団 |
| ・日本赤十字社 | ・日本赤十字社 消防団消防団 |
| ・奈良県支部 | ・消防団消防団 消防団消防団 |
| ・奈良県医師会 | ・消防団消防団 消防団消防団 |

- ・女性消防団員のPFAを学びたいという小さな声が、消防団のみならず、たくさんの関係機関との合同訓練に繋がりました。

[奈良市消防団活性化大会]

- ・奈良市は平成24年度から奈良市消防団活性化大会を開催しています。
- ・第1回、第2回は消防団の活動を市民に知っていただくため、会場のホールで活動紹介を行いました。第1回大会では、舞台上で操法を披露し、選手のお子様が客席から終始「パパ、格好いい」と叫ぶなど、ほんわかした操法となりました。開会式は、中学生のブラスバンドを先頭にパレードが会場に入りスタートし、各分団の特徴を活かしたラッパ隊の演奏、活動報告、物まね、カラーガード演技などを行いました。
- ・第3回の平成26年度は、奈良ロイヤルホテルを全館貸し切り、震度7の地震を想定した奈良市消防団、DMAT、DPAT合同訓練を実施しました。
- ・客室を家屋、宴会場を避難所に想定し、活性化委員と、被災者役の演技者以外は何も知らされないブラインド訓練でした。救助に来た男性団員は、家から出たくない住民に心底困っていました。また、外国人観光客や、アルコール依存症の方など、対応の方法が分からず、あたふたしているうちに訓練は終わりました。訓練後、振り返りも行いましたが、正直、答えが見つからないままでした。
- ・平成27年度の合同訓練は、近鉄様のご協力により実際に電車を走らせ、列車事故を想定した訓練でした。近鉄の体育館が避難所の想定で、被災者役の方に声をかけるなどの対応に追われ、同じ方に何人もの団員が同じことをお聞きしたなど、今回の訓練も反省点が多く残りました。
- ・2度の訓練を終え、私たち女性団員にできること、本当にやるべきことに悩んでいたとき、災害を経験された広島市安佐南消防団の西部隊長からお話を聞くことができました。お話では、とにかく避難所の掃除をしよう、衛生管理、感染予防などを行うということでした。
- ・このお話に、心を打たれました。普段の家族への行動が私には思い浮かばなかったことに驚きました。
- ・平成28年度は小学校をお借りして、土砂降りの雨の中の訓練でした。救助訓練の場でも男性団員同士のPFAの設定がブラインドで準備され、倒壊家屋の中で埋もれていた子どもが、自分の子どもと重なって動けない団員にどのような対応をするかという内容でした。また、体育館では自主防災組織の方々と、避難所開設や運営に取り組みしました。
- ・自分は、回を重ねていく中で、PFAの最終目的である、繋ぐところに重点を置き、色々な要望を訴えられる被災者役の方に対して繋ぎ先を考えながら、対応するようにしました。



望を訴えられる被災者役の方に対して繋ぎ先を考えながら、対応するようにしました。

・実際に災害が発生した際に、同じ対応ができるとは思えないので、訓練を重ねる大切さを実感しました。

・私たち女性消防団員にできること、掃除をはじめ、人の嫌がることを率先して行うことではないかという気づきを心にとめ、この経験を色々な場所で活かしたいと思います。

『一義務教育の授業で バイスタンダーCPRの育成』（要約）

奈良市消防団 分団長
河内 美粧氏



〔奈良市消防団の概要〕

- ・奈良市は、東西南北4方面隊、22分団で構成され、定数は1,000名。
- ・平成28年度、4方面隊の隊長、副隊長、そして各分団長、合わせて30名で団員確保についてアンケート調査を行いました。
- ・アンケートで、消防団応援の店制度を取り入れてはとの意見があり、準備を進めています。

〔授業に防災教育 小中一貫教育でバイスタンダーCPRの育成〕

- ・学生の時から防災、救命を意識づけする仕組みをつくるため、平成27年度からは小中学校一貫の教育モデル校に防災救命授業を組み込み、消防団員が指導しています。
- ・開始当時の校長先生は、平日の昼間有事の際は、地元の中学生在が自分の町を守らなくてはならないという意識づけを行い、防災力と救命力を義務教育期間中に生徒に教育し、卒業後には、地域へお返しするとの熱い思いをお持ちでした。こうして各団体や地域が一丸となり、小中一貫教育でバイスタンダーCPRの育成が実現しました。
- ・昨年度のカリキュラムでは、幼稚園2年間も含め、成長に合わせてながらトータル11年間にわたるものとなっています。
- ・幼児期は紙芝居や体操で大切な命の守り方を楽しく指導するもので、消防職員も同行し、幼稚園での消防車の見学は大好評です。
- ・小学1、2年生の低学年期には「こんなときどうする」と題し、学校で地震が起こり、避難をし、次は火事、蜂は飛び、雷が鳴る。「なんて日だ劇場」をクイズ形式で行います。最後にはもくもくチャレンジャーと題し、授業会場の体育館でシーツを火災時の煙に見立てて、子ども達を教室に戻させます。
- ・小学3、4年生の中学年期は、防災センターでの防災体験の課外授業と119番通報の方法について、人気キャラクターをナビゲーターにしたスライドで指導します。
- ・小学5、6年生、高学年期は、助けられる人から助ける人になるための、応急手当、救命を進めます。5年生は、実際に子供用ライフバックを使用し心肺蘇生を体感し、6年生は、成人の講習と同じ内容の応急手当、救命を行います。ここまでの講師は消防職員の救命士で、消防団員は実技をサポートします。
- ・中学生の授業では、地元の男性消防団員にも出動をお願いしています。平成28年度に男性団員へ声がけしたところ、協力し

新しい取り組み ～産・官・学と共に～

＜産＞
・他県では消防団員とその家族を対象に割引などの優遇サービスを提供する「消防団応援の店制度」を実施し話題を呼んでいる。地域貢献している団員に少しでも励ましを伝える事ができるのでは？

＜学＞
・学生（小中学生・高校生）の頃から防災・救命に対する意識付けができる仕組みを作っていく。
幼稚園から「消防団」の周知

授業に防災教育

小・中一貫教育で バイスタンダーCPRの育成

学年	防災教育	防災教育	防災教育	防災教育
幼稚園	紙芝居・防災ゲーム	消防車・消防団員の見学	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
1年生	防災教育	学校での避難訓練	学校行事	学校行事
2年生	防災教育	こんなときどうする？	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
3年生	防災教育	防災センターでの防災体験	学校行事	学校行事
4年生	防災教育	助けを呼んでみよう！ 119番通報	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
5年生	防災教育	心肺蘇生を体験してみよう	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
6年生	防災教育	救命士体験	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
7年生	防災教育	救命士体験	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
8年生	防災教育	救命士体験	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
9年生	防災教育	救命士体験	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
10年生	防災教育	救命士体験	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
11年生	防災教育	救命士体験	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学
12年生	防災教育	救命士体験	消防団員・消防車の見学	消防団員・消防車の見学

小学生対象 防災教育



第18回 全国女性消防団員活性化 秋祭大会(平成24年)



てくれることになり、男女共同参画の年間行事が増えました。授業の最後には、当分団が考案した、「やまとなでしこ体操」を全員で行います。

- ・消防団員による授業の指導は、「消防団を知ってもらうこと」、「有事に備えて顔の見える関係づくり」と自負しています。
- ・小中一貫教育でバイスタンダーCPRの育成は、現在、一つの中学校区だけですが、この取組が奈良市全校区へ広がれば、将来奈良市の公立中学校を卒業した市民は、救命現場に居合わせた時、心肺蘇生を行える人となり、「我が町を守る 住民の命を守るヒーロー」になれると私も確信し、防災力、救命力、日本一の奈良市となる一翼を担えればと思っています。
- ・第18回全国女性消防団員活性化秋田大会（平成24年）では、やまとなでしこ体操を披露しました。続いて、子ども対象のちびっ子防災体操も作りました。

[消防団のPR]

- ・当分団は、広報紙なでしこ新聞を発刊していますが、市の広報紙にも消防団を取り上げていただきました。
- ・コミュニティFM（ならどっとFM）へ出演し、消防団活動紹介、出初式、若草山の山焼きの案内もしました。
- ・平成28年度の当分団が提出した活動点数は、規律訓練、研修、打合せや練習を含め、189点でした。今年度も市民のお役に立てるよう頑張ります。



[若草山山焼き警備]

- ・日頃は火を消すことが使命の消防団員が毎年1月の第4土曜日には、堂々と山に火を放つ行事です。澄んだ寒空に打ち上がる花火の後、一斉に点火される様は厳かですが圧巻です。



7 講演（要約）

『その時 女性隊にできることは』

広島市安佐南消防団 分団長
西部 美千代氏

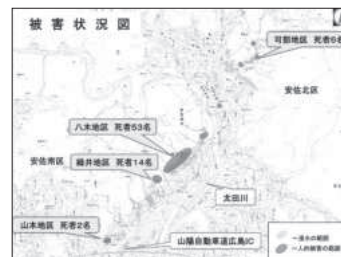


[広島市消防団の概要]

- ・広島市消防団の組織は、8行政区に分かれ、8消防団となっています。そして、私が所属している安佐南消防団には、女性消防隊が21名在籍しています。

[広島豪雨災害]

- ・2014年8月20日の豪雨災害のメカニズムは、バックビルディング現象によるものです。暖かく湿った風による乱気流が上昇し、次々に積乱雲を発生させました。積乱雲が同じ地域に長く留まったため大雨が続き、また爆発音のような雷も何度も鳴りました。避難指示や避難勧告が出ましたが、このような時は怖くて怖くて外へ出られません。その時は夜中の12時ですが、真っ暗なのに稲光がずっと光っていて、部屋の隅々まで明るかったのです。



[被害状況]

- ・安佐南区から安佐北区にかけて、バックビルディング現象が留まりました。
- ・たくさん土砂災害が発生しましたが、同じ場所で浸水も発生しています。
- ・人的被害は、八木地区が53名と最も被害がひどく、全ての地区あわせて74名という尊い命が亡くなりました。
- ・山本地区は2名ですが、土砂災害発生の一報は3時頃でした。ここでは2名の幼い子どもが1階に寝ていて被害に遭いました。
- ・可部地区は死者6名です。消防職員の殉職も含まれていますが、3



歳の子どもと一緒に流されました。見つかった時には、しっかり幼い子どもを抱きかかえたまま、本当に最後の最後まで職務を全うされました。本当に涙が出る殉職でした。

- ・八木地区、県営緑が丘地区は、谷筋からの土砂により、多くの家が流されました。また、県道や、JR可部線も土砂でストップしました。
- ・指定されていた避難場所には、早朝から住民が行きましたが、土砂で何もできず、開設も遅れたということです。
- ・山裾に近い住宅街には、人間の2倍も3倍もある、建設機械でも動かせないような大きな岩が簡単に何十も雨水で流されてきました。
- ・このような危険な場所で、行方不明者を捜索しなければなりません。大量の土砂ですから、本当に地道な手作業となりました。

[当日の消防団活動]

- ・発災当日、8月20日の消防団の活動ですが、まず3時30分、山本地区より2名の幼い子どもが亡くなったとの一報を受けて、広島市災害対策本部が設置されました。
- ・3時55分に安佐南消防団団本部、4時00分に安佐北消防団団本部が設置されました。この頃には安佐南から安佐北に通じて災害が発生していたものの、女性消防隊には連絡はありませんでした。
- ・4時55分、安佐南消防団が集結完了。大変な被害であることから、市内4消防団に応援が要請されました。
- ・この日の災害は尋常ではないということで、私も朝から女性消防隊にも何かさせてくださいとの思いで、消防署へ駆けつけました。15時00分に避難所支援活動が決定され活動を開始し、19時31分に活動が終了しました。
- ・男性消防団8団に他の分団が加わり564名が集結し、車両に積載している資機材を確認後、災害現場の出勤準備を行いました。



[行方不明者の捜索状況 手作業で土砂を掘り出した!]

- ・災害現場では、最初は長靴でしたが、長靴は土砂が軟弱でずぶずぶと入るので、抜こうとすれば長靴が残り、足だけ抜けるような状況でした。そのため、安全靴を紐でくくり、靴が脱げない状況で出勤し、現場ではさらにガムテープで補強したと聞いています。
- ・急斜面でも多くの男性団員が手作業で土砂を掘り出し、行方不明者を捜索しました。石や泥を取り除く手袋は、本来頑丈なものですが、一日で破れるほど大変な作業だったと聞いています。
- ・建設機械が入らない地域での活動は、全て人力となり、消防団の献身的な活動とマンパワーに多くの住民が賞賛しました。



[多くの市町が応援に!]

- ・広島市近隣から多くの消防団員が駆けつけ、献身的な活動をしていただきました。
- ・多数の市町が集結して活動することは全国的にも珍しく、とても大きな力となりました。



[最後のおひとりが発見されるまで!]

- ・9月10日、最後のお一人がなかなか見つからず、一斉捜索が行われました。
- ・消防、警察、自衛隊が協力して実施しました。河川敷では腰まで水につかりながら捜索し、絶対に諦めないという強い意思を持って皆が一致団結して頑張りました。



[主な被害状況]

- ・人的被害は、死者77名を含む、118名となっております。物的被害は、全壊174件を含む、合計3,080件です。過去の土砂災害と比較しても甚大な被害となりました。

主な被害状況			
【人的被害】		【物的被害】	
被害区分	人数	被害区分	件数
死者	77人	全壊	174
自傷者		半壊	187
重症	8人	一部損壊	142
軽傷	36人	床上浸水	1,166
合計	121人	床下浸水	3,080

[消防団員の延べ活動人員]

- ・男性団員は、8月20日から9月10日の22日間、延べ3,820名、女性消防隊員は、8月21日から9月19日の30日間、延べ319名が活動しました。また、9月8日から9月30日の23日間、避難勧告が継続されましたので、男性団員278名が活動しました。
- ・熊本地震でも聞かれましたが、そうした空き巣被害などが増えておりましたので、地元の消防団が赤色灯を回しながら地域を練り歩き、住民の安心・安全に務めました。延べ42日間で、4,707名が活動しました。

消防団員の延べ活動人員			
(単位:人)			
区分	男性団員	女性団員	合計
人命検索・救助活動	3,820	—	3,820
避難所の支援活動	—	319	319
避難勧告継続地域の警戒監視	578	—	578
合計	4,398	319	4,717

[女性消防隊に何かできないか]

- ・広島には温暖だから大規模災害は来ないと思っていた、そんな折の災害でした。
- ・朝、主人から私の家の近くも土砂災害が起きたことを聞きました。主人から、「あんたは消防団で何かしなければならないのじゃないか。」と言われ、背中を押されました。
- ・土砂災害のお宅を見に行くため、外に出るやいなや、土砂がすぐそこまで来ていました。電信柱も倒れていて、私たちの町の様子が一変していました。
- ・消防団からは何も連絡は無い。そこで私はまず、女性消防隊員の安否確認を行いました。地域の皆に、どうなっているか聞いてみようということで、連絡網を取り出しました。団長さんとは全く連絡が付きませんでした。女性隊員とは安否確認が出



来たので、待機してほしいと伝えました。

- ・次に私は消防署へ行きました。案の定、署内はごった返していました。私も現場へ出てくれということで、男性団員と女性隊員の4名で現場へ行きました。
- ・現場は、田んぼのような状況でした。車も渋滞し消防車もサイレンを鳴らしても現場に入れませんでした。一方、空はヘリコプターがゴーゴーと音をたてていました。人命救助のヘリもいましたが、マスコミのヘリもありました。マスコミは情報を知らせる必要があることは分かりますが、人命救助を優先にして欲しいとつくづく感じました。
- ・現場の甚大な被害を目の当たりにし、私たちも何かしなければならぬ、何かしたいという思いがさらに大きくなりました。

[避難所、支援活動を開始]

- ・そうしたなか、消防局から、避難所の支援活動をしてみないかと言われ、避難所として開設された佐東公民館と八木小学校の2か所に分かれて支援活動に入りました。
- ・避難所には人がいっぱい、私たち女性消防隊には、マニュアルもなく、何をして良いか分からず、公民館の館長さんも同様の状況でした。避難されている方々は、段ボールや毛布を敷いて場所を確保し、不安な時間を過ごされていることは、見て分かりました。



[避難生活者の衛生面に配慮]

- ・まず考えたのは、ゴミの整理です。公民館内は土足の出入りなため、ドロドロでした。これを踏まえながら、ゴミの整理から始めました。
- ・8月ですので、大量のゴミからハエや臭いが充満することを考え、一日数回となく搬出し、避難生活者の方の衛生面に配慮していきました。
- ・土砂は乾くと埃っぽくなります。とても不衛生なので、広い体育館では、皆が数珠つなぎとなり、一斉の雑巾がけで掃除するというふうに工夫しながら取り組みました。
- ・土砂の進入を防ぐため、とにかく皆で拭き掃除を行い、消毒も欠かさず行いました。出入口に消毒液に浸したバスタオルを敷き詰め、土砂の進入を防ぎました。エレベーターのボタンの消毒も行いました。
- ・トイレ掃除には特に力を入れました。便器、扉、取っ手、手すり、床に至るまで、拭取り消毒を行い、臭いもなくなりました。屋内だけではなく、外の仮設トイレも同様に行いました。毎日毎日、トイレの掃除を欠かさず行いました。
- ・せき込まれる方もいたので、洗



面台でうがいの敢行を勧めたり、女性やお年寄り用の救援物資を分かりやすく、女性の目線に立った気配りをし、優しく配置させていただきました。

[情報掲示板]

- ・避難所での生活は、情報交換がとても重要です。各避難所の情報、入浴、炊き出しの案内、病院、診療の案内、希望の品物の発注状況等、あらゆる情報を掲示板へ書き、お知らせしました。

[段ボールベッドの組み立て]

- ・避難生活が長期にわたるということで、避難者の方々にとっては、床に直接段ボールを敷いての生活が、先の見えない不安とストレスで疲れ果てておられました。そんな中、段ボールベッドが200個入ることになり、女性消防隊が搬入から組立てまで引き受けました。
- ・段ボールベッドはなぜ強度があるか、シングルベッドは12個の段ボールでできていて、それぞれ斜めに板が入っていて強度を増しています。
- ・組み立てられた段ボールベッドを家族分つないで、相談に応じながら組み立て、仕切りもでき、プライベートも守られるようになりました。
- ・「起き上がりやすく、もう身体が痛くならない。」と被災者の方が喜ばれた顔が今でも忘れられませんし、女性消防隊で良かったとつくづく感じました。



[避難者に分かりやすい救援物資の仕分け]

- ・救援物資が次々に送られてきました。一つずつ、女性消防隊がサイズを確認して整理したり、どのような服か一目で分かるようにしてから展示させていただきました。佐東公民館ですから、ブティック佐東と名付けて、皆さんに喜んでいただきました。



[避難者の方への問いかけ]

- ・女性消防隊がいつも忘れないように心がけていたことは、避難者への問いかけでした。
- ・「何か困ったことはないですか。」「お身体の調子はいかがですか。」と聞き、被災者の方の目線に立った活動を続けていくうちに、私たちが心待ちにしてくださるようになりました。



[女性消防隊員スマイル]

- ・「活動服を着ているあなたたちが来ているから、本当に心強い。明日も来てね。」と、喜ばれている顔が今でも思い出されます。
- ・4月に入団した女性隊員が、8月には即戦力として頑張ってくださいました。地元の人から、「あなたの笑顔に救われたよ。」と励ましていただきました。
- ・この活動服を着ている安心感もありますが、団員同士で集まって話をしていると目立ちます。相談したり、ひと時の休憩をとる際や、区役所の方との避難所運営についての相談なども、人



目のつかないところで行いました。

[日本消防協会会長 激励]

- ・日本消防協会の会長さんも激励に来ていただきました。長期にわたる広島市の消防団の活動を高く評価していただき、励ましてくださいました。



[館長からお礼の手紙]

- ・活動終了後、館長様を始め、職員一同様から「館内の掃除をはじめ、様々な活動が避難された方々の心に安らぎを与えてくださいました。」と心温まる手紙をいただき、避難者の方だけではなく、同じ立場で活動した方々からも賞賛を受け、女性隊員全員が活動して本当に良かったと感じています。
- ・この活動を通して、広島市各区の女性消防隊は垣根を越えた横の繋がりができ、大変大きな絆となりました。私たち一人では何も出来ませんが、ここにいらっしゃる皆さん、そして全国の女性消防隊の力は本当に大きなものだと思います。
- ・それぞれ知恵を出し合えば、多くの避難者の方の力になれると実感したところです。
- ・至るところで災害が発生していますが、男性団員はハード面、女性隊員は心のケアや避難所支援活動などのソフト面で、双方の活動を両立させてこそ消防団活動ができると思います。
- ・女性消防隊は不要であるという考えを持っておられる男性幹部の方がおられたならば、今日、女性にもこうした大きな力がたくさんあることを感じていただけたと思います。



8 閉会のことば

神戸市灘消防団 分団長 下西 直子氏

ただいま御紹介いただきました、神戸市灘消防団分団長の下西直子でございます。

神戸市灘消防団では、9月30日に秋田県で開催されます第23回全国女性消防操法大会に向けて、出場団員を中心に一生懸命訓練をしているところでございます。兵庫県代表としまして、ますます努力し、一生懸命頑張ってくることをここでお約束させていただきます。ありがとうございます。

それでは閉会の言葉を申し上げます。本日の大会の成果として、兵庫県内の女性消防団員が更に増え、そして各消防団において女性消防団員がより一層活躍されますことを心より祈念し、本大会を閉会といたします。



大会資料

1 事例発表・講演資料

2 アンケート調査結果

事例発表・講演資料

事例発表①

『消防団員確保の取組みについて

～地域に根ざした消防団員確保対策～

内田 隆氏(神奈川県横浜市旭消防団団長)
川原 秀子氏(神奈川県横浜市旭消防団副団長)

横浜市旭消防団

消防団員確保の取組について

～地域に根差した消防団員確保対策～

平成29年6月3日
横浜市旭消防団

団長 内田 隆

横浜市について

横浜市の状況

人口 376万人

消防団数 20団
団員定員 8,305人

旭消防団の定員等

・横浜市旭消防団

定員 655 人

平成27年4月現在
557人(男性491人、女性66人)
充足率 85.0% 98人不足

充足率100%に向けて

定員充足率100%に向けて

背景

- 東日本大震災での教訓
- 消防団等充実強化法の成立
- 震度6以上の揺れに見舞われる確率80%超

⇒消防団への期待が増加

旭消防団の課題

旭消防団の課題

- ①区内数か所に大規模団地が所在しているが、消防団員が殆どいない
- ②サラリーマンが増加し、平日の昼間に活動できる人員が不足
- ③居住地団員だけでは定員確保は困難 など

消防団員確保の取組1

消防団員の確保に向けた取組1

地域イベント等での地道な募集活動に加えて、

- ①若葉台団地に特化した消防団員の募集活動

消防団員 平成27年4月現在2人

背景

- ・平成27年8月若葉台団地で高層建物火災が発生
- ・消防団員が救護や照明活動等で活躍
- ・居住者の高齢化



若葉台団地 総戸数約6,300戸
居住者 約15,000人 誕生して30年余

平成27年8月建物火災状況



団地での募集活動

【若葉台団地での募集活動】

・団地団員確保プロジェクト

- 自治会と連携した募集活動
- 夏まつりでの募集活動
- 防災訓練での募集活動



団地の入団状況

若葉台団地での入団状況

- ・平成27年4月 消防団員2人
- ⇒平成28年4月 消防団員10人
- ⇒平成29年1月 消防団員29人

【今後の活動】

大規模団地に適応した新たな活動を模索



消防団員確保の取組2

消防団員の確保に向けた取組2

- ②サラリーマンが増加し、平日の昼間に活動できる人員が不足

- 女性消防団員の更なる確保



女性団員確保の取組

女性団員確保の取組

- 女性団員の魅力づくり

【毎月1回平日昼間に代表者会議を開催】
女性団員の役割・活動内容・現状課題等を検討

⇒体力的な不安、男女間での活動時間の違い、子育て、ネットワークの活用など



女性団員確保の取組

- ①災害時に女性団員ができること

- 救護活動 ○地域情報の活用

- 情報の収集と伝達

- 男性への資機材の取扱い指導



女性団員確保の取組

②女性団員の活動

【地域での指導】

- 小・中学校での救急指導

- 地域での救急指導



女性団員確保の取組

【教育・訓練】

- 救護訓練（応急手当、救命講習など）
- 着衣泳訓練（子供の事故対策）
- 無線機取扱い訓練
- 救助資機材の取扱い指導訓練





③訓練に参加しやすい環境づくり
訓練時、保育士及び
子育て経験者による
託児所を設置



④ネットワークの活用

消防団員の募集や災害時に
女性ネットワークを活用



女性団員の入団状況

平成27年4月 消防団員 66人
 ⇒平成28年4月 消防団員 95人
 ⇒平成29年1月 消防団員125人

【今後の活動】

- ・顔の見える関係づくり(全体研修)
- ・組織体制の整備
- ・消防団の魅力づくり



平成29年1月
定員充足率100%を達成！

平成27年4月 557人/655人
 ⇒平成28年4月 595人/655人
 ⇒平成29年1月 655人/655人



ご清聴ありがとうございました。

事例発表②

『川西市女性消防団の活動事例及び団員募集方法について』

加藤 英里氏(兵庫県川西市消防団副分団長)

川西市女性消防団

活動事例報告 団員確保策について

川西市消防 キャラクター
きんすけくん



川西市について

- ・兵庫県 南東部に位置する
- ・気温…温暖
- ・人口…約16万人
- ・昭和29年
- ・東谷村、多田村、川西町が合併して誕生
- ・特産品…いちじく、栗など



平成5年 第11分団 チェリーファイアー 発足

ねらい→女性のソフトさを活かした活動

市広報誌などにより募集
面接、体力測定を経て30名入団

愛称「チェリーファイアー」は市木の「桜」消防団の徽章「桜」から



チェリーファイアー 主な活動

- ・広報・啓発活動
防火啓発、普通救命講習会の実施、普通救命講習会の補助、救急救命のイベント(QQ広場など)
- ・訓練活動
春季、秋季火災予防運動での訓練
- ・その他
花火大会の水際警備
マラソン大会での救護活動補助



川西市ポンプ操法大会出場

協調性
動きの美しさ

小型ポンプの部、全21部中、7位！



一般市民対象の普通救命講習会(入門編)

応急手当普及員の資格 取得
『PUSH! PUSH! PUSH! ひろめよう救命の輪 IN 川西』
救命士とともに、市民に救命講習会の指導



男性団員向け普通救命講習会

- ・数年に一度、男性団員向け普通救命講習会を実施
- ・男性団員60名に対し指導



効果測定の手法

- ・人形に膏薬を貼る
- ・傷病者がうつぶせに倒れる
- ・AEDを実施する際に、手を出して人形に触る
- ・傷病者の胸毛が濃いなど

受講者が臨機応変に対応できるかを試験



一庫ダム周遊マラソン大会救護活動

- ・昭和57年、一庫ダム竣工を記念して始まった大会
- ・約3000名のランナーが参加
応急手当のキット、AEDを持参しての参加
- ・平成27年、マラソン大会において、転倒したランナーに対し、手当てを実施
- ・裂傷部分の消毒、圧迫止血を実施



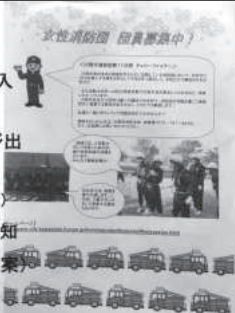
団員確保策について

消防団について、消防団活動について知ってもらうことが大切



具体策

- ・紹介(知人友人への呼びかけ、家族で入団)
- ・イベントでのPR、お祭りなどのステージ出演の折、消防団の存在を周知
(団員募集折込チラシ入りティッシュ配布 →)
- ・他のコミュニティで消防団について周知
- ・ちびっこ消防団など、体験入団の実施(案)



地域の新聞、広報誌などに掲載



団員から……入団して、良かった

市民から……チェリーファイアーが居てくれて良かった



ご清聴ありがとうございました

川西市消防団 第11分団

チェリーファイアー

事例発表⑤

『「奈良市消防団」～活動紹介～』

石田 裕子氏(奈良県奈良市消防団班長)
河内 美粧氏(奈良県奈良市消防団分団長)



PFAとは？
深刻なストレス状況にさらされた人々への人道的、支持的かつ実際に役立つ援助。PFAには次のようなことが含まれます。

- 押しつけがましくない、実際に役立つケアや支援
- ニーズや心配事の確認
- 水や食料など、必需品の援助
- 無理強いせず、傾聴する
- 安心させ、落ち着かせる
- 被災者に、情報や公共サービス、社会的支援につなぐ
- さらなる危害からの保護

(資料提供：医学博士 窪田子先生)

平成27年度 奈良市消防団・DMAT・DPAT合同訓練

<主催> 奈良市消防団
<共催> 奈良市消防局
・近畿日本鉄道(株)
・日本DMAT事務局
DPAT事務局
・日本赤十字社
奈良県支部
・奈良市医師会

参加機関
・奈良市消防団・奈良市消防局
・消防団員等公務災害等共済基金
・橿原市消防団(3団)
・DMAT2隊・DPAT8隊・奈良市医師会
・日本DMAT・DPAT事務局
・日本赤十字社奈良県支部
・奈良市保健所・奈良市危機管理課
・奈良市女性防災クラブ
・奈良警察署・奈良西警察署
・近代消防社・奈良県防災航空隊
・各報道機関・他・・・等



第1回 奈良市消防団活性化大会
(平成24年度)

奈良市消防団・DMAT・DPAT 合同訓練

<26年度>～第3回奈良市消防団活性化大会～
奈良ロイヤルホテルを全館貸し切って合同訓練
<27年度>～第4回奈良市消防団活性化大会～
近鉄電車を実際に停車させて合同訓練
<28年度>～第5回奈良市消防団活性化大会～
小学校の運動場・体育館で合同訓練(予定)
※ 団員同士の PFA
※ コミュニティーFM(ならどっとFM)が初参加

第4回活性化大会 奈良市消防団・DMAT・DPAT 合同訓練



奈良市消防団を中核とした
防災力強化訓練
～第5回 活性化大会～



大安寺西小学校 体育館
避難所運営



新しい取り組み ～産・官・学と共に～

<産>
・他県では消防団員とその家族を対象に割引などの優遇サービスを提供する「消防団応援の店制度」を実施し話題を呼んでいる。
地域貢献している団員に少しでも励ましを送る事ができるのでは？

<学>
・学生(小中学生・高校生)の頃から防災・救命に対する意識付けができる仕組みを作っていく。
幼い頃から「消防団」の周知

授業に防災教育

小・中一貫教育で
バイスタンダーCPRの育成

対象	内容	テーマ	主催者	実施者	備考
幼稚園	幼児	防災教育	防災って何？	消防隊	広報指導分団 防災体験 消防車の見学
	1年生	防災教育	学校での避難訓練	学校教員	学校行事
	2年生	防災教育	こんな時どうする？	消防隊	広報指導分団 ちびっ子 防災体験
	3年生	防災教育	防災センターで防災体験	学校教員	防災センター
	小学校	4年生	防災教育	助けを呼んでみよう 119番通報	消防隊
★	5年生	応急手当	心肺蘇生を体験してみよう	救急隊	広報指導分団 あっぱれ使用 心肺蘇生体験
	6年生	応急手当	救命入門コース	救急隊	広報指導分団 修了証発行
中学校	1年生	応急手当	普通救命講習(分割前半)	救急隊	広報指導分団 男性団員と共に
	2年生	応急手当	普通救命講習(分割後半)	救急隊	広報指導分団 普通救命講習 修了証発行
	3年生	応急手当	救急ブラッシュアップ講習	救急隊	広報指導分団 男性団員と共に

小学生対象 防災教育



第18回 全国女性消防団員活性化 秋田大会(平成24年)



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
広報		2	2	1	1	2	3	3	3	2	1	1	21
救命講習	1	2	1	3				2				2	11
訓練	1	1	1	1	2	1	1	2	1	3	1	1	16
練習	3	5	4	2	3	11	4	5	10	6	8	6	67
広報誌				2	1	1	2	1	1				8
研修				2		1	1		1		1	1	7
式典・大会	2	1	1		1					2	1		8
他	5	5	2	3	2	5	4	6	5	5	5	4	51
合計	12	16	11	14	10	21	15	19	21	18	17	15	189



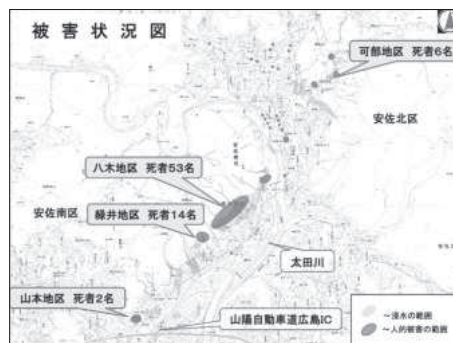
講演

『その時 女性隊にできることは』

西部 美千代氏(広島県広島市安佐南消防団分団長)



広島市消防団の組織 (H28. 2. 1現在 単位:人・台)									
区分	計	中	東	南	西	安佐南	安佐北	安芸	佐伯
分団数	84	9	8	12	8	12	17	9	9
定員	2,753	231	238	344	215	391	670	307	357
実員	2,659	225	232	322	201	365	665	302	347
うち女性	160	14	21	39	19	21	19	11	18
ポンプ車	32	-	1	-	-	3	14	9	5
積載車	124	9	11	12	9	21	34	8	20
小型動力ポンプ	292	27	21	36	21	42	74	28	43



巨石で多くの家屋が倒壊した状況



大規模な土砂災害で道路は・・・！



平成26年8月20日の活動等

3:30	3:55	4:00	4:55	5:00	10:00	13:15	15:00	19:30
● 広島市災害対策本部設置	● 安佐南消防団 団本部設置(召集)	● 安佐北消防団 団本部設置(召集)	● 安佐南消防団 集結完了	● 安佐北消防団 集結完了	● 市内4消防団 応援要請	● 市内4消防団 集結完了	● 避難所の支援活動 検討	● 活動終了
● 安佐南消防団12分団115名が救助活動等					● 安佐北消防団17分団188名が救助活動等			
					● 市内4消防団8分団 41名が救助活動等			



7消防団564名が集結



行方不明者の搜索状況
手作業で土砂を掘り出した！



消防団の献身的な活動！



せまい水路の中までも！



多くの市町が応援に！



9月10日（水）一斉搜索！



最後のおひとりが発見されるまで！



俺たちはあきらめない！



主な被害状況

【人的被害】

被害区分	人数
死者	77人
負傷者	重症 8人
	軽傷 36人
合計	121人

【物的被害】

被害区分	件数
全壊	174
半壊	187
一部損壊	142
床上浸水	1,166
床下浸水	3,080

消防団員の述べ活動人員

(単位:人)

区 分	男性団員	女性団員	合 計
人命検索・救助活動	3,820 8/20～9/10の22日間	—	3,820
避難所の支援活動	—	319 8/21～9/19の30日間	319
避難勧告継続 地域の警戒巡視	578 9/8～9/30の23日間	—	578
合 計	4,398	319	42日間 4,717

避難所の支援活動

消防団で何かすることがあるんじゃない？



田んぼの中と変わらないほど
軟弱な土砂で歩けませんでした！



土石流発生状況・女性隊活動場所



発災当初多くの市民が避難
体育館も瞬間間にいっぱい！



廊下にもあふれた避難者！



避難生活者の衛生面に配慮
不衛生なゴミ等を日に数回処分しました！



掲示板やごみ箱の作成
市民に分かりやすく・使いやすく！



避難者が生活しやすいよう
毎日掃除を実施！



毎日欠かさず清掃
少しでも快適に過ごして頂くために！



トイレの清掃
女性の目線に立った気配り・心配り！



段ボールベッドの搬入が始まる！



約200個の段ボールベッドが積まれた！



段ボールベッドの作成
掃除ができた場所から実施した！

作成した段ボールベッド
200個作成し避難者も満足そうでした！



救援物資の仕分け
避難者に分かりやすく並べる女性消防隊！



避難者のチェック
名簿を見て避難者の体調確認をした！



消防団員スマイル
この笑顔に多くの避難者が救われました！



ひと時の休憩も避難者に配慮し
屋外の人目につかない所で！



日本消防協会会長 激励



平成26年9月4日(木)佐東民公館

活動終了後日
館長からお礼の手紙が届きました！



ご清聴ありがとうございました。

完



アンケート調査結果

女性消防団員活性化大会アンケート結果

女性消防団員の部

- ・大会参加者数 女性消防団員 188名
- ・アンケート回答数 女性消防団員 160名

1 所属する消防団の活動について

(1) 女性団員の活動状況について

- ① 活発に活動している 回答数 66
- ② 時々活動している 回答数 72

【主な活動内容】

- ・ 市民救命士講習、地域の行事への参加、幼稚園などの避難訓練
- ・ 高齢者宅訪問
- ・ 男性団員と同じ訓練、CPR講習など
- ・ 広報活動
- ・ 啓発劇
- ・ 操法訓練
- ・ 夜間巡回、防火パトロール
- ・ 手話講習
- ・ 献血事業
- ・ 広報誌作成（消防本部と連携・協力して企画を行う）
- ・ 避難所運営ゲーム（HUG）講師
- ・ 出初式のラッパ演奏
- ・ 水防訓練

- ③ あまり活動していない 回答数 8
- ④ 活動していない 回答数 2 ※未回答 12

【活動が進まない理由】

- ・ 仕事と活動日との調整が難しい
- ・ 少人数のため、集まる機会がなかなか無い

2 兵庫県女性消防団活性化大会について

(1) 大会について

- ① 大変有意義であった 回答数 85
- ② 有意義であった 回答数 60
- ③ あまり有意義ではなかった 回答数 0
- ④ 有意義ではなかった 回答数 0
- ⑤ どちらでもない 回答数 1 ※未回答 14

(2) 特に参考になった事例発表、講演について

発表者名・団	参考になった内容
横浜市旭消防団	・団員の勧誘方法が具体的に知ることが出来て良かった。 ・色々工夫をされ、熱心に消防団員確保に取り組まれていることが分かった。 ・託児所について参考になった。団員や職員の意識次第で新入団員も増えると感じた。（「団幹部が本気で望むこと」の言葉が印象に残った。） ・救助などについては、自分の所属では見聞きしたことが無い内容なので、興味深かった。
奈良市消防団	・災害後の心のケア ・女性団員が、どのような活動を行うことができるのか、よく分かった。 ・地域、団体との合同で実地訓練をくり返すことで、行動や知識が身につくと思った。 ・子ども達への防災教育は、全ての都道府県で導入するべきだと思う。 ・幼、小、中と一貫した消防救急指導はすごいと思った。 ・PFAとは、初めて聞く用語でした。女性が特に活躍できる活動だと思う。
西部美千代氏	・避難所活動 ・災害時に何ができるのかというところ。 ・実際の避難所での活動（具体例）をお聞きできたところ。 ・心にぐっときた。女性消防団員にしか出来ない活動だと感じた。
播磨町消防団	・尼崎市消防団もそうだが、おもしろさの中にしっかりとした内容が組み込まれていたこと。 ・楽しく知識を得ること。今後、自分たちも取り組みたいと思う。 ・感動した。内容が分かりやすい。 ・消火器が3種類あることを知らなかったなので、参考になった。
尼崎市消防団	・手話付きで歌を歌う。 ・内容が分かりやすく大変良かった。 ・歌がすごく良かった。 ・心に響く歌で、胸が熱くなりました。 ・女性消防団員の歌として、もっと広く広めたい。 ・歌を全員で歌えるようになりたい。 ・劇は少し早口で分かりにくかった。 ・歌の振付（手話）を真似したい。 ・兵庫県の皆で、この歌と振付を広めていきたい。
全	・自分が新入団員なので、女性消防団員の活動内容を知るととても良い機会となった。使命を持って活動をされている姿を見させていただき、感化された。 ・防災の伝え方、いざとなった時の動き方、行動の大切さを学ぶことができた。 ・自分たちの使命感を刺激された。

3 消防団活動に関する意見等がございましたら、自由に記入してください。

意見	・女性消防団員の活動を市民にもっとPRする必要があると感じる。日々の知識等をもっと身につけていきたいので、研修等がもっとたくさんあればと思う。 ・どの発表も学ぶことが多く、質問してみたいこともたくさんあるので、もっと深く聞くことができる時間をとって欲しい。 ・消防団員以外の方々にも活動を発表できる機会が欲しい。 ・機能別消防団を積極的に取り入れることで、活動しやすくなり、消防団員確保に繋がると考える。 ・消防団員カード（消防団応援事業所）を使う機会が無い。 ・自然災害に加え、テロの発生やミサイル攻撃に備えた訓練の必要もあると考える。 ・女性消防団員の操法大会も県大会を開催することで実力も自信もつくと思う。
感想	・健常者だけではなく、障害のある方、ハンデのある方にも防災、救急などの知識を持ってもらうことも必要なのではと思いました。 ・実際の災害時の女性団員の活動について知ることができ、今後やるべきことを考えるきっかけになった。このような機会がまたあるなら参加したい。 ・各地域の活動が分かり良かった。女性消防団員の活動の幅が広がればと思う。 ・消防団員を確保するのに、どこも大変だと感じた。 ・現在、女性としては活動をしていないため、いつも男性団員の裏方のみだったが、活動の仕方は色々あることを知ることが出来た。機械の操作など、自分では使用することは出来なくても、使い方は知っておくべきだと思う。人に教えられるようにもしたい。 ・どのようにしたら活動をPR出来るのか考えたい。 ・女性消防団としての活動は、いくらでも工夫の余地があることを学ばせていただいた。 ・所属団員の数、各市町の時間、予算に限りがあるのが現状。 ・入団して間もないが、活動するエネルギーを貰えた大会だった。
要望	・もっと、情報を伝えあえたらと思う。自分たちの活動に対する刺激を一杯もらえた。できたら、この大会のDVDを貰えると嬉しい。 ・定期的に活性化大会を行って欲しい。情報交換ができるような場が欲しい。 ・PFAの研修を受けたい。 ・DMAT、DPATとの合同訓練に興味がある。

男性消防団員の部

- ・大会参加者数 男性消防団員 140名
- ・アンケート回答数 男性消防団員 106名

1 女性消防団員について

(1) 女性団員の入団状況について

- ① 女性団員がいる 回答数 76
- ② 女性団員はいない 回答数 29 ※未回答 1

(2) 女性団員が入団している消防団の方にお答え願います。

女性団員増員の取組みについて

- ① 取り組んでいる。 回答数 59

【取組み内容】

- ・地域内イベントで活動時に広報を行う
- ・独居老人宅訪問
- ・HUG訓練
- ・小中学校への消防訓練等で声かけ
- ・知り合いへの声かけ
- ・活動内容を紹介したチラシの作成
- ・大学へ協力依頼し、女子学生の入団促進を進めている
- ・ケーブルテレビなどでPR

- ② 特に取り組んでいない。 回答数 14

【理由】

- ・団員数の定数があるため
- ・現団員のネットワークのみ
- ・組織的に動いていない
- ・意識が低い
- ・幹部が新体制になり、日が浅いため

※未回答 3

(3) 女性団員が入団していない団の方にお答え願います。

※○印が無くても、理由を記載の場合は回答数にカウントしています。

女性団員の入団について

- ① 女性団員の入団を予定している。 回答数 3（篠山市回答1、加東市回答2）

市町名	入団予定
篠山市	平成30年4月頃
加東市	2年以内

② 女性団員に入団して欲しいが、進んでいない。 回答数 15

【進まない理由】

- ・現在協議中
- ・これからの人員募集
- ・活動方法が分からなかったが解決した
- ・女性団員の役割が不明確であるため
- ・女性団員を受け入れる体制が出来上がっていない
- ・入団条件を検討中
- ・勧誘方法、活動内容のあり方
- ・各分団にアンケートを実施したが、その後経過についての総括が無い
- ・広報不足
- ・募集はしているが、入団までいたらない

③ 女性団員の入団は考えていない。 回答数 11

【理由】

- ・今後検討したい
- ・諸問題があるが考えていきたい
- ・定数を満たしているため
- ・必要性を感じていない
- ・女性が入団するという発想が無い（※改める必要があると感じた。）

※女性団員の入団は考えていないとの方針であったが、今回の活性化をとおして、検討していく方向性も模索するという回答が2消防団あった。（宍粟市、福崎町）

2 兵庫県女性消防団活性化大会について

(1) 大会について

- ① 大変有意義であった 回答数 53
- ② 有意義であった 回答数 45
- ③ あまり有意義ではなかった 回答数 0
- ④ 有意義ではなかった 回答数 0
- ⑤ どちらでもない 回答数 1 ※未回答 7

(2) 特に参考になった事例発表、講演について

発表者名・団	参考になった内容
横浜市旭消防団	・幹部が本気の心を持ち対応する。 ・団員確保の具体的な行動の数々は参考になった。
奈良市消防団	・幼稚園から中学生まで、一貫した防災教育に取り組まれているところがすごいと思う。 ・地域防災の充実 ・PFAの専門的知識、活動報告 ・女性ならではの取組視点

西部美千代氏	・男性はハード面、女性はソフト面で、両方とも協力しているところがすばらしい。 ・災害現場での実際の活動 ・避難所開設について ・女性の視点に立った心配り
川西市消防団	・団員募集方法 ・一年間の予定表があり、操法大会へ参加するなど、男性団員に負けない活動がすばらしい。 ・後方支援だけではない活動がすばらしい。 ・女性のみの分団編成や活動事例、募集事例が参考になった。 ・入団してからの指導、活動の方法が積極的である。
播磨町消防団	・楽しく知識を得ることができる。 ・完成度が高い。
尼崎市消防団	・完成度が高い。

3 消防団活動に関する意見等がございましたら、自由に記入してください。

意見	・尼崎の歌が兵庫県内に広まると嬉しい。 ・女性消防団にどこまでのスキルを求めるのか。地域差もあるので、難しいかもしれない。 ・会社員でも十分活動していけるスケジュール等の確立を検討しなければならない。
感想	・短い時間であったが、多くの発表を聴かせていただき、感謝している。 ・女性ならではの活動がよく分かった。 ・女性ならではの気づき、女性にはできないこともあると勉強になった。 ・皆さんが、目的や役割をよく認識され、活動されていることが分かった。 ・本日の大会をとおり、女性団員の入団も考えていきたいと感じた。 ・女性団員の大まかな活動は理解できたが、もう少し詳細な部分も知りたいと思った。 ・入団の声かけの難しさを感じる。（入団適齢期の人間と、幹部の年齢差の関係が難しい。） ・現在は、女性消防団員の数が少ないが、一つの分団ができるようにしていきたいと考える。 ・女性に出来る事は多いと思い、参考になった。 ・明るく発表されている姿を見て、日頃から楽しく活動されているのが伝わってきた。 ・女性ならではの活動に感心した。所属へ持ち帰り活動内容を検討したい。
要望	・団員確保の広報活動の仕方、チラシなどご指導いただきたい。 ・女性消防団員募集に関する資料があれば、提供していただきたい。

(公財)兵庫県消防協会

〒650-0011

神戸市中央区下山手通4-16-3

TEL : 078-333-8073

FAX : 078-333-8076

URL <http://www.hyogoshoubou.jp/>